

## 『ヒゲの校長』上映会 開催要項

- 【目的】 口話至上主義教育が推し進められ、聾者にとって大切な言葉「手話」が排除されようとしていく中で、「手話」を守り抜こうとした大阪市立聾学校の高橋梨校長、そして彼を取り巻く聾者や家族、仲間たちの生き様や想いを知る。彼らの想いに触れることで、今の私たちが生きる社会の在り方を振り返り、未来を担う若者や子供たちに残したい「誰も置いていかない」社会について考えるきっかけにしたい。
- 【名称】 映画『ヒゲの校長』上映会 ※同時に、書籍物品販売も致します。
- 【日時】 2022年12月18日(日) 8:45~15:35
- 【場所】 美瑛町民センター 多目的ホール「美丘」(上川郡美瑛町寿町2丁目3番13号)
- 【プログラム】
- |        |             |                                                    |
|--------|-------------|----------------------------------------------------|
| (午前の部) | 8:30~9:00   | 開場・受付(美瑛町民センター多目的ホール「美丘」)                          |
|        | 9:00~9:10   | 開会・出演者紹介<br>主催者代表挨拶 手話コミュニティひだまり 代表 岩井 真里子         |
|        | 9:10~9:50   | ミニ講演「高橋校長とその時代」<br>講師 NPO法人 大阪ろう就労支援センター 理事長 前田 浩氏 |
|        | 9:50~12:00  | 上映(130分)                                           |
|        | 12:00~12:05 | 閉会・諸連絡                                             |
| (午後の部) | 12:30~12:45 | 開場・受付(美瑛町民センター多目的ホール「美丘」)                          |
|        | 12:45~12:55 | 開会・出演者紹介<br>主催者代表挨拶 手話コミュニティひだまり 代表 岩井 真里子         |
|        | 12:55~13:35 | ミニ講演「高橋校長とその時代」<br>講師 NPO法人 大阪ろう就労支援センター 理事長 前田 浩氏 |
|        | 13:35~15:45 | 上映(130分)                                           |
|        | 15:45~15:50 | 閉会・諸連絡                                             |
- 【参加費】 町民(無料) 町外一人1,000円(小学生以上)
- 【主催】 『ヒゲの校長』上映会実行委員会(美瑛手話サークル・美瑛町婦人団体連絡協議会・富良野手話サークル)
- 【協力】 美瑛町・美瑛手話サークル・美瑛町婦人団体連絡協議会・富良野手話サークル・一般社団法人旭川ろうあ協会・手話サークル連絡協議会旭川三親会・北海道手話通訳問題研究会道北支部旭川班・旭川市おやこ応援課・母乳育児相談室きらり・旭川ウェルビーイングコンソーシアム
- 【後援】 公益社団法人北海道ろうあ連盟・旭川市・上川振興局・北海道教育委員会・旭川市教育委員会・北海道聾学校長会・北海道教職員組合・北海道高等学校教職員組合・社会福祉法人旭川市社会福祉協議会・特定非営利活動法人旭川障害者連絡協議会・北海道旭川聾学校・北海道旭川聾学校PTA・北海道旭川聾学校同窓会・北海道聾学校PTA連合会・北海道中途失聴者協会・旭川中途失聴者協会・特定非営利活動法人全国要約筆訳問題研究会北海道ブロック・北海道手話サークル連絡協議会・北海道手話通訳問題研究会・北海道手話通訳問題研究会道北支部・北海道手話通訳士会・びえい新聞社・北海道新聞社旭川支社・旭川ケーブルテレビ「ポテト」・FMりべる・旭川映画村・北海道放送(HBC)・あさひかわ新聞社・朝日新聞社・読売新聞社
- 【事務局】 上川郡美瑛町北町2丁目2番26号  
『ヒゲの校長』上映会実行委員会 担当 岩井 真里子(手話コミュニティひだまり)  
メール [higebiel2022@gmail.com](mailto:higebiel2022@gmail.com) 電話 0166-92-5229(和気宅 留守電折り返し電話します)

## 【映画について】

皆さんは、耳がきこえない人と話されたことはありますか。筆談、ジェスチャー、口元を見せてゆっくりはっきり話すなど、さまざまなコミュニケーション方法がありますが、その中で手話をメインにして話す人たち「ろう者」がいます。ろう者にとって**手話**はかけがえのない言葉です。

ろう・難聴の子どもたちが通う**ろう学校・聴覚支援学校**では、手話が使われてきたのだろう…そう、多くの方が思うでしょう。ところが、大正の終わり頃から最近までろう学校では手話は禁止・制限されていました。「**口話法**」と言って発声し、相手の口の動きを読みとる方法が急速に広がり、口話法を進めるには手話は不要なものとされてしまったからです。きこえない子どもが訓練によって話せるようになる…、なんと素晴らしいことだろうと、ろう者のことを知らない人は思うかも知れません。

しかし、口話法を身につけさせるために、かつての口話訓練は、つい手話で話してしまう子どもは叩かれ、両手を縛られもした苛酷なものでした。おおっぴらに手話ができないろう者たちはずっと苦しみました。

そこに疑問をもち、個々の子どもに合わせて手話と口話を取り入れる教育を進めた学校がありました。この映画の舞台となる**大阪市立聾啞学校**です。

映画『ヒゲの校長』は、**校長 高橋 潔**を中心に教師たちがスクラムを組んで、手話を守り続けた実話がもとになっています。愛情と信念をもって子どもらに接した高橋と「チーム高橋」の教員たち、高橋に献身的に寄り添った家族…戦争にあけくれた困難な時代に、ろう者と共に生きた人々の物語です。

どうぞ、ご家族、お友だちとご一緒にお越してください。



【昭和8年 大阪市立聾啞学校】  
～ 高橋校長ときこえない先生たち ～

## 【あらすじ】

**大正3年仙台から大阪へ**、青年高橋潔は、恩師の紹介状を持って大阪市立聾啞学校の門を叩いた。家の事情にて海外留学し音楽家を目指す夢をあきらめ、失意にあった高橋。

そんな彼の前に現れたのは、家から追い出され、警官に連れられて来た正一君。耳がきこえず、会話できないもどかしさで暴れる正一君に、高橋は寄り添い、手話を覚え、彼と共に歩みだす…。手話やろう者のことを高橋先生に教えるきこえない先生たち…。

しかし、時代は大きく変わる。「口話法」という嵐が全国の聾学校に吹きまくり、口の動きを読み取り、発語できるようにするためには手話は禁止するべきと、ほとんどの学校が手話を抑えていった。

ろう者の言葉である手話がつぶされそうになっていく中、手話とろう者を守るべく、高橋校長と先生たちは一丸となって時代にあらがおうと立ち上がった…。

